

日本側拠点機関名	京都大学東南アジア研究所
日本側コーディネーター所属・氏名	京都大学東南アジア研究所・中西嘉宏
研究交流課題名	新興 ASEAN 諸国の移行期正義と包括的経済発展に関する研究交流
相手国及び拠点機関名	カンボジア プノンペン王立大学開発学研究所 タイ チュラーロンコーン大学アジア研究所 ミャンマー ヤンゴン大学国際関係学部

研究交流計画の目標・概要

【研究交流目標】 交流期間（最長3年間）を通じての目標を記入してください。実施計画の基本となります。

1. 新興 ASEAN 諸国のための社会構想を目指して

今、東南アジアの潜在力に世界が注目している。2015 年には域内の経済統合に向けて ASEAN 経済共同体が発足し、今後ますます域内相互依存と、同地域と世界との政治経済関係は深まっていく。しかしながら、ASEAN 諸国への楽観的な将来予想の一方で、カンボジア、ベトナム、ミャンマー、ラオスといった**新興の ASEAN 諸国は、不正で不平等な政治経済発展経路をたどるリスクに直面しており、今後の発展をより公正で平等なものにする構想力が、研究機関をはじめとした市民社会に求められている。**そこで本事業は、京都大学東南アジア研究所がリーダーシップをとって、日本国内の研究機関、新興 ASEAN 諸国（特にカンボジアとミャンマー）の研究機関および、すでに中所得国となったタイの研究機関との学術交流を通じて、新興 ASEAN 諸国にとってより望ましい政治経済発展を支える社会構想の検討と提示を目指す。

2. 具体的目標：国際共同研究・研究協力ネットワークの構築・若手育成

- ①政治社会と経済をテーマとした国際共同研究のなかで、日本の東南アジア研究者と現地研究者が討議し、新興 ASEAN 諸国が抱える社会的課題を把握して、学術論文等を通じて**長期的な社会構想**を提示する。
- ②東南アジア研究所が事務局を務める「アジアにおける東南アジア研究コンソーシアム」(SEASIA) に拠点機関の参加を促し、**東南アジア研究ネットワークの更なる拡大・活性化と拠点機関の研究基盤を強化**する。
- ③研究拠点機関で短期集中型の「東南アジア・セミナー」を開講し、院生・若手研究者の留学・研究交流を促進して**次世代にいたる研究者コミュニティ**を形成する。

【研究交流計画の概要】 ①共同研究、②セミナー、③研究者交流を軸とし、研究交流計画の概要を記入してください。

共同研究

新しい社会構想の提示のために、本事業では異なる視角から以下の2つの国際共同研究を組織する。

A. 移行期正義と安定社会：紛争の記憶をいかに融和的なものとして社会亀裂を埋めていくか検討

B. 包括的経済発展戦略：先進 ASEAN 諸国を参照軸に実現可能な経済発展戦略を検討

それぞれについて参加研究機関等からメンバーを募り、下記のシンポジウム、セミナーおよび研究者交流を通じて問題意識の共有をはかるとともに、頻繁に意見交換を行って議論を発展させる。

シンポジウム・セミナー

初年度は問題意識の共有に時間を割き、その成果は年度後半に京都で開催される上記 SEASIA の国際会議で発表する。二年度目は3つの共同研究それぞれが個別にセミナーあるいは研究会議を東南アジア側の参加機関で実施して、メンバー間の意見交換による問題意識の発展を図る。最終年度は研究成果の最終総括を目的とするシンポジウムを開催する。また、毎年、短期集中型の「東南アジア・セミナー」を開催して、域内の若手研究者の交流を進めるとともに、ベテラン研究者からの知識、技術、人脈の国際的伝達をうながす。

研究者交流

東南アジア研究所の発信する多言語ウェブジャーナル *Kyoto Review of Southeast Asia* の編集に本事業のコアメンバーを加えることで、多言語機能を強化するとともに情報発信基盤の共有化を行う。また、新興 ASEAN 諸国の研究環境の現状に鑑みて、拠点機関の図書館間の連携など広い意味での学術交流を実施する。

[実施体制概念図] 本事業による経費支給期間（最長3年間）終了時までには構築する国際研究協力ネットワークの概念図を描いてください。

新興ASEAN諸国の移行期正義と包括的发展に関する研究交流

